

Ⅱ 学科の教育

(4) 授業科目等の概要

分類	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間	授業方法
必須	人間の尊厳と自立	人間の尊厳を福祉のもつ意義から考える。具体的には、生活場面の事例から高齢者や障害を有する人々の尊厳の保持と自立について、介護現場で起こる事例を通して基本となる考え方を学ぶ。個々人の権利としての人権を理解し、利用者の権利侵害の背景や権利擁護、自立のあり方について考える。	1・前	30	講義
必須	人間関係とコミュニケーションⅠ	人間関係の形成と支援関係における人間関係の形成や、対人関係とコミュニケーションを学び、より良い介護が実践できることを学ぶ。	1・前	30	講義
必須	人間関係とコミュニケーションⅡ-①(手話)	障害をもつ人たちと同じ社会に生き、生活するということ、すべての人が社会参加でき平等に情報を得ることについて考える。そのうえで、聴覚障害とはどんな障害か、聴覚障害者の生活とはどのようなものかを理解しつつ、コミュニケーションの手段を学び、日常生活に利用できる手話表現を身につける。	2・前	30	演習
必須	人間関係とコミュニケーションⅡ-②(点字)	視覚障害者の現況と障害特性、生活ニーズと心理および視覚障害者が利用可能なサービスについて解説し、介護の専門職としてのコミュニケーション技術(点字など)を修得する。	2・後	30	演習
必須	チームマネジメント	人材管理、リーダーシップ・フォロワーシップ等、チーム運営の基本を理解する学習とする。	2・後	30	講義
必須	社会の理解Ⅰ-①	社会の理解では、生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家族、社会、組織、地域社会の概念を理解する。社会の理解Ⅰ-①では、主に地域社会における生活支援について学び、地域共生社会の実現に向けた制度や施策などを学ぶ。	1・前	30	講義
必須	社会の理解Ⅰ-②	社会の理解では、生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家族、社会、組織、地域社会の概念を理解する。社会の理解Ⅰ-②では、主に社会保障制度、社会福祉と介護保険制度について学ぶ。	1・後	30	講義
必須	社会の理解Ⅱ	社会の理解では、生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家族、社会、組織、地域社会の概念を理解する。社会の理解Ⅱでは、主に障害者福祉と障害者保健福祉制度や他の介護実践に関連する諸制度にどのようなものがあるかを具体的に学ぶ。	2・前	30	講義
選必	組織人間関係論	様々な人々と相互に尊重しあいながら人間関係を作る考え方、スキルやツールを学ぶ。人間関係構築場面を実際に演習やロールプレイングで体験し技量を高める。人間関係の調整や人材育成法をチームで企画する文化祭イベントの場面で学ぶ。「多職種連携・チームケ	1・前	30	講義

		ア・回想法・遊ビリテーション」等を意識したイベントを企画する。			
必須	介護の基本Ⅰ	前期では、介護の成り立ちや概念の変遷について説明を行い、介護福祉の基本理念を通して「尊厳の保持、自立支援」について具体的に理解できるように説明する。介護福祉士の活動の場と役割、「社会福祉士及び介護福祉士法」について説明し、介護福祉士養成カリキュラムの変遷についても説明する。 後期では、「介護福祉士の倫理」について、介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を具体的に学ぶ。また「自立に向けた介護福祉のあり方」について、ＩＣＦの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から、リハビリテーション等を学ぶ。	１・通	60	講義
必須	介護の基本Ⅱ	前期では、介護を必要とする人の尊厳ある生活を支援する専門職として、基礎となる考え方を学び、「生活ニーズ」や「その人らしさ」を大切にすることを理解する。また介護福祉士の多様、複雑、高度な専門職としての社会的役割を理解する。 後期では、住み慣れた地域で可能な限り生活をしたいと願っている高齢者や障害者に対し、サービス提供方法と多職種連携の必要性を学ぶ。介護の理念を現実するために、倫理・知識・技術を統合し、利用者の生活の観点から「介護の基本」と「生活支援技術」を関連づけ、基礎的な力を培い、実践力を高めることを目指す。	１・通	60	講義
必須	介護の基本Ⅲ（医療と介護）	在宅介護、施設介護において医療と介護を切り離して支援することはできないこと、介護福祉士として医療について理解することは、医療職と連携し協働するために不可欠であることを学ぶ。	１・前	30	講義
必須	介護の基本Ⅳ（リハビリテーション）	リハビリテーションの考え方とその背景、リハビリテーションの概念、リハビリテーションにおける介護福祉士の役割、関係職種との連携を学び、「自立支援」「尊厳保持」「介護予防」の具体的な実践をイメージできるようにします。	１・後	30	講義
必須	コミュニケーション技術Ⅰ	介護における意義と目的、介護技術とコミュニケーションの関係性について学習する。介護福祉士に求められるさまざまなコミュニケーション技法について理論と事例を組み合わせ学習する。	１・後	30	演習
必須	コミュニケーション技術Ⅱ	コミュニケーション障害を理解し、障害のある利用者への対応の基本をふまえ、利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際を学習していく。また介護におけるチームのコミュニケーションをすすめる具体的な方法について学習する。	２・前	30	演習
必須	生活支援技術Ⅰ-①（住居・被服・家庭生活）	生活支援技術論に基づき、対象者に楽しさを引き出す実技・技術を学ぶ。個別性を重視し集団という実技を通じ、対応技術を学ぶ。高齢者に起こりやすい主な事故とその予防の視点を学ぶ。	１・後	30	演習

	生活支援技術Ⅰ-②（住居・被服・栄養調理・家庭生活）	被服生活及び住生活の理解について学ぶ。家庭生活の意義と経営・管理について学ぶ。高齢者及び障害者のための栄養と調理について学ぶ。	2・前	60	演習
必須	生活支援技術Ⅱ-①	生活支援と生活支援技術の意義を理解し、自立に向けた「身じたく」「移動」「食事」「入浴」「清潔保持」「排泄」「休息・睡眠」の介護技術について学ぶ。	1・前	30	演習
必須	生活支援技術Ⅱ-②	生活支援と生活支援技術の意義を理解し、自立に向けた「身じたく」「移動」「食事」「入浴」「清潔保持」「排泄」「休息・睡眠」の介護技術について学ぶ。	1・後	60	演習
必須	生活支援技術Ⅱ-③	着脱、清潔保持、食事、排泄、移動、家事、睡眠及び終末期の意義を理解し、利用者の状況に応じた技術について演習を行いながら理解する。また、利用者の状況を考えながら、様々な援助方法を学ぶ。	2・前	60	演習
必須	生活支援技術Ⅲ	尊厳と自立を踏まえた、障害別に合わせた適切な介護技術とは何か理解する。また、ターミナル期における利用者の状態を理解し、全ての生活支援技術の集大成とする。	2・後	60	演習
必須	生活支援技術Ⅳ（アクティビティ・サービス）	「アクティビティ・サービス」が生活の豊かさや利用者の心身と生活の活性化を支援することを理解する。介護現場においてより質の高い「アクティビティ・サービス」を提供できる知識を身に付ける。	2・通	60	演習
必須	介護過程Ⅰ-①	利用者一人ひとりに応じた個別ケアを提供するために必要な専門知識を活用した客観的で科学的な思考過程を学ぶ。介護過程の意義と目的を理解し、介護過程の展開方法を学ぶ。	1・前	30	演習
必須	介護過程Ⅰ-②	利用者一人ひとりに応じた個別ケアを提供するために必要な専門知識を活用した客観的で科学的な思考過程を学ぶ。既習した知識・技術を統合して、事例を通して根拠に基づいた生活課題を明確にし、適切な個別援助計画を立案する。	1・後	60	演習
必須	介護過程Ⅱ	利用者一人ひとりに応じた個別ケアを提供するために必要な専門知識を活用した客観的で科学的な思考過程を学ぶ。既習した知識・技術を統合して、事例を通して根拠に基づいた生活課題を明確にし、適切な個別援助計画の立案、実施、評価について学ぶ。	2・前	60	演習
必須	介護総合演習Ⅰ	介護総合演習・介護実習の意義と目的を理解したうえで、介護実習Ⅰ-①および介護実習Ⅰ-②の事前学習ならびに実習終了後の振り返りを行う。	1・通	60	演習
必須	介護総合演習Ⅱ	介護総合演習・介護実習の意義と目的を理解したうえで、介護実習Ⅰ-③および介護実習Ⅱの事前学習ならびに実習終了後の振り返りを行う。	2・前	30	演習
必須	介護総合演習Ⅲ（卒業研究）	介護福祉課程2年間の総仕上げとして、卒業研究を行う。卒業研究は介護実習での個別支援計画の実施結果を介護事例研究としてまとめることにより、学生自ら体験した介護実践を振り返り考察する能力を養う。	2・後	30	演習
必	介護実習Ⅰ-①	介護実習Ⅰ-①では、利用者の暮らしの場を	1	80	実

須		知り、介護サービスを利用している様々な人と出会う実習とする。	・前		習
必須	介護実習Ⅰ-②	介護実習Ⅰ-②では基本的な介護技術を実践しながら、介護実習Ⅱの介護過程につなげる実習とする。	1・後	15 2	実習
必須	介護実習Ⅰ-③	介護実習Ⅰ-③では、利用者が地域で生活していくための支援体制を理解する実習とする。	2・前	32	実習
必須	介護実習Ⅱ	介護実習Ⅱでは、介護実習Ⅰでの体験を踏まえながら、コミュニケーション技術や介護技術を用いて介護過程の展開を行う。	2・前	19 2	実習
必須	こころとからだのしくみⅠ	人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。健康の概念を考えさせながら説明する。こころのしくみを再認識させ具体的に理解できるように説明する。からだの構造と機能について図や体験などを取り入れて理解できるように説明する。グループワークやDVDを通して終末期や死についての介護および家族ケアを考える学習を行う。	1・前	60	講義
必須	こころとからだのしくみⅡ	精神疾患を持つ人は近年増加している。精神疾患を学ぶことを通して、このような人たちへの共感、理解を深める。また、精神疾患をもつ人たちへの支援方法についても学ぶ。	2・後	30	講義
必須	こころとからだのしくみⅢ	こころとからだのしくみの基礎的な知識をもとに、移動、身じたく、食事、排せつ、休息・睡眠等の生活場面ごとに、心身の機能の低下や障害が生活に及ぼす影響、変化に対する観察のポイント、医療職との連携のポイントを学ぶため、「なぜ」「なにが」「どうなったから」「どうする」の流れで授業を進める。受け身ではなく、自ら気づきケアの実践ができるよう考える授業の展開をしていく。介護現場での事例なども授業内で紹介していく。	2・後	30	講義
必須	発達と老化の理解	発達の観点から老化を理解し、老化に関する身体機能や心理の変化に関する基礎知識を習得する。	1・通	60	演習
必須	認知症の理解	認知症に関する基礎知識を理解するとともに、認知症のある人の意思表示の困難さや認知症特有の世界を理解し、本人と家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。	2・通	60	演習
必須	障害の理解	障害のある人の心理や身体機能に関する基礎知識を習得する。また障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。	2・後	60	講義
必須	医療的ケアⅠ	医療的ケアを安全、適切に実施するために必要な知識を習得する。医療的ケアの基礎が理解できる。喀痰吸引、経管栄養について必要な知識を身につける。	1・通	68	講義
必須	医療的ケアⅡ	医療的ケアを安全、適切に実施するために必要な技術を習得する。医療的ケアの基礎が理解でき、喀痰吸引、経管栄養について必要な知識を身につけ実施できる。	2・前	60	演習